

令和3年度 さいたま市立片柳小学校 自己評価書

校長 五十嵐 公明 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 確かな学力を身に付け、学ぶ楽しさを実感させる授業
 - ・授業力向上 ・学力向上 ・児童の学習習慣の確立 ・読書 ・情報教育（ICT、ネットリテラシー）
- (2) 人として生き生きと生きる礎の構築(心、からだ)
 - ・体力向上 ・特別活動 ・学校行事 ・いじめ、長欠対応 ・課外活動
- (3) 人や地域に感謝する心情の涵養(自然にしみこむように育てること)
 - ・保護者との連携 ・地域への参画 ・校外学習（地域学習）
- (4) 児童の可能性を伸ばす教師(「質問力」の向上)
 - ・キャリアステージの自覚 ・研修 ・業務改善
- (5) 小・中9年間を見通した取組の充実（地域との連携）
 - ・キャリア教育 ・小・中一貫教育 ・地域との連携 ・合同学校運営協議会

2 評価結果について

- (1) 授業力の向上については、『よい授業』アンケートで4因子とも市の平均と同等か上回った。学校課題研修として、「さいたま市GIGAスクール構想」の具現化を目指し、特にタブレットPCの効果的な活用を目指した公開または研究授業をすべての教員が行った。ほとんど家庭では宿題を中心に集中して学習する時間が確保されているが、1日にインターネットを使う時間も増加傾向にある。図書館まつり等の実践により「本をよく読むようになった」という保護者回答は増加した。
- (2) 感染症対策で運動(体育)の内容が制限されているが、「体育以外で体をよく動かしている」と回答した児童の割合は88%と高い。いじめや長欠に関して、組織的な対応ができたことから、「いじめや不登校解消に向け、十分に取り組んでいる」と回答した保護者の割合が83%(前年と同等)、「困ったとき先生に相談できる」と回答した児童の割合が86%(前年比+4%)であった。
- (3) 学校WEBページの積極的な更新や校外学習や運動会等の行事を実施できたこともあり「学校は、家庭や地域との連携を深める教育活動を行っている」と回答した保護者の割合が83%(前年比+7%)と高く評価された。
- (4) 児童の「覚えたことやできるようになったことをすすんで使った」の回答が94%と2年続けて高くなっている。特別の教育課程であるグローバル・スタディ科は専科教員が指導の中心となり、探求学習も含め計画的に進められた。言語活動の時間の確保やタブレットPCの活用も積極的に進められた。
- (5) 今年度より片柳中学校と合同で学校運営協議会を立ち上げた。熟議の中で、9年間を見通した意見が多く出るようになり、学校間でも小・中一貫教育の推進が進んだ。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- タブレットPCを活用する教員のスキルを高めて質の高い授業を行っていく。併せて児童の個別最適な活用や家庭での使用方法について積極的に使いながら研究していく。
- 教科担任制の効果的な運用をさらに研究・推進していく。
- 地域とのつながりがほとんどもてなかったので、改めて関わりを持てる機会を設定していく。
- 教職員の多忙感の解消のため、業務の効率化について全職員でアイデアを出し合っていくことや、計画年休等が取りやすい体制を整えていく。